

物語『十年屋～時の魔法はいかがでしょう？～』シリーズⅠ巻目



まほう
廣嶋玲子/作 ひろしまれいこ
佐竹美保/絵 さたけ み ほ
ほるぷ出版 ほるぷ出版

あなたの大切なものあずかります

わす 忘れたくても忘れられない大切なものを思い出と一緒にあずか
つてくれる十年屋。あずけたいと強く願った人に、招待のカードが届き、十年屋に導かれます。十年屋で働いているのは紳士と執事のねこのカラシ。ものを10年間あずかってもらうには、1年間の寿命を捧げなければなりません。

小さな頃からずっとぬいぐるみを大事にしていた少女、会えなくなったお友だちにゆきだるまをみせたかった男の子、どうしても孫にメッセージを伝えなかったおじいちゃんなど、ほっこりするお話から、深く考えさせられるお話まで様々なお話を楽しむことができます。

作者は、『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』を書いた廣嶋玲子さんです。『銭天堂』が好きだった人は、ぜひ『十年屋』のシリーズも読んでみましょう。

物語『昔話法廷』SeasonⅠ

NHKE テレ「昔話法廷」制作班/編 今井まさこ
金の星社

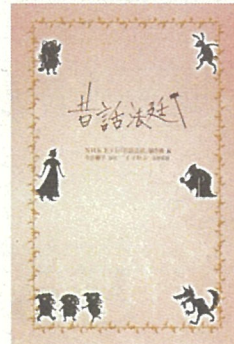
自分で答えを出してみましょう

もしも、昔話の登場人物が裁判にかけられたら、どうなるのでしょうか？

シリーズⅠ巻目では、『三匹のこぶた』、『カチカチ山』、『白雪姫』が載っています。

例えば、『三匹のこぶた』では、煙突から入ってきたオオカミをお湯を沸かした大なべの中に落とし、ふたをし、重しの石まで載せ、死亡させた末っ子の子ぶたが罪に問われます。さて、子ぶたは、「殺人罪」で有罪なのでしょうか？それとも、自分の命を守ろうとしてやった行為なので、「正当防衛」が認められ、無罪となるのでしょうか？子ぶたの兄弟や、オオカミの母親、弁護士、検察官など、様々な証言を聞いて考えてみましょう。この本では、最終的な結論は出ていません。みなさん自身で答えを出してみましょう。

昔話を楽しみながら、裁判の勉強にもなる本ですよ。



物語『シロクマが嵐をこえてきた！』

マリア・ファラー/作 だにえりー/絵 杉本詠美/訳 あかね書房

困っている人の元へ駆けつけます



遠い国からやってきた女の子マヤは、新しい家族と一緒に暮らしていました。マヤが家族のなかで大好きなのは、言葉の読み書きを根気よく教えてくれたアンおばあちゃんです。でも、最近、アンおばあちゃんの物忘れが多くなり、マヤは心配していました。

そんなある嵐の夜に、マヤが部屋の窓から海を見ていると、誰かがボートを漕いでいるのをみつけました。翌日、マヤとアンおばあちゃんが、浜辺のほらあなを覗きに行くと、なんとシロクマがいました。名前はミスターP。ミスターPは、話すことはできませんが、人間が話す言葉を理解できるようです。一緒にいることで苦勞することもありましたが、助けてほしい時や、そばにいてほしい時に、心の支えになってくれる優しいシロクマです。みなさんも、きっと、この本を読み終わる頃には、ミスターPが大好きになるのではないのでしょうか？

自然科学『なぜこうなった？あの絶景のひみつ』

増田明代/文・構成 山口耕生/監修 講談社

世界を旅してみたくくなります

表紙の写真を見て、空を自転車が走っていると思った人が多いのではないのでしょうか？こちらは、南米大陸のアンデス山脈にあるウユニ塩湖です。もともとは海底だった場所が盛り上がり、標高3700mの高さにあります。雨季に水が溜まっても浅くしか溜まらず、水面が水鏡となり、家や人をくっきりと映し出すそうです。

この他にも、ダイヤモンドヘッドや、真っ赤に染まるナトロン湖、フィヨルド、オーロラなど、不思議な地形や自然現象によって生まれた奇跡の絶景がたくさん見られます。そして、なぜこんな絶景が生まれたのか、解説を読むと、さらに楽しめますよ。

